

「がいな」・「がいや」の使われ方の調査

1年4組 河野 敢太

1年4組 立花 拓未

指導者 教諭 渡部 陽子

1 課題設定の理由


「がいな」「がいや」は、宇和島の方言の中でもよく使われている言葉の一つである。しかし、私たち高校生の会話の中ではあまり使われていないということに気が付いた。これらの言葉は宇和島以外の他の地域の人たちが聞いて分かるのか、宇和島以外の地域でも使っている地域はあるのか、さらには、高校生世代が本当に日常生活の中で方言を使っているのか、という疑問を持った。そこで、宇和島の方言の中でもよく知られている「がいな」「がいや」という言葉を手がかりに、現在の方言の使われ方の実態を明らかにしたいと考え、この課題を設定した。

2 仮説

方言は祖父母の世代を中心に年配の年齢層の人たちが主に使っているのではないかと考えた。孫(私たち高校生)と祖父母の関係を調べると明らかな差が生まれると考えたが、調査対象として高齢者を対象にすることが困難であったため、親と子の世代に分けて調査することにした。年齢の差を縮めること、親と子の関係性を探ることができ、世代間の特徴をある程度把握することができると思った。

3 研究・調査の方法

高校生とその親を対象に、以下のようなアンケート調査を実施した。

質問を幾つか行います。 以下の質問にお答えください また、Noならば聞いたことがあるかを答えてください 「がいな雨やなあ」と言いますか？ Yes or No 「がいにいい成績を挙げた」 「がいなひどい雨だった」 「犬がもう死ぬる」 「学校から往ぬる」 「オットロシヤ」 「もうここへはくな！」 「そがいなことはすな！」 		YES	NO
	がいにいい成績を挙げた		
	がいなひどい雨だった		
	犬がもう死ぬる		
	学校から往ぬる		
	オットロシヤ		
	もうここへはくな！		
そがいなことはすな			

4 結果と考察

(1) 結果

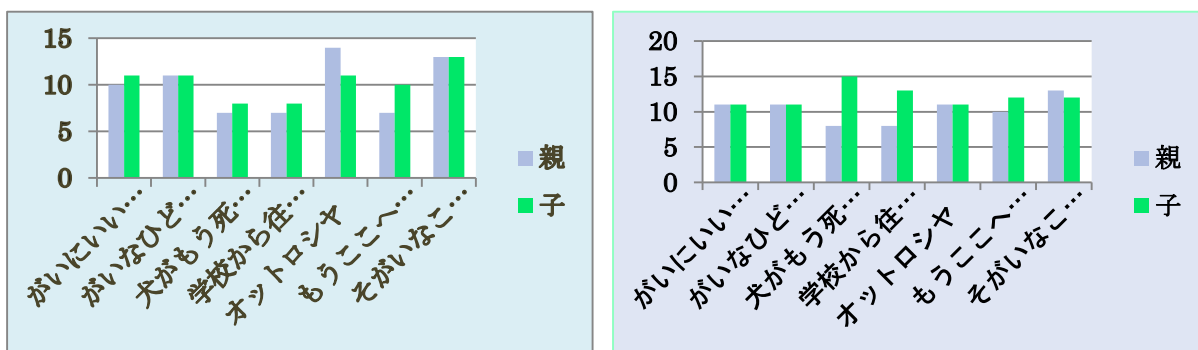


図1:アンケート調査結果
(左)YESと答えた人 (右)NOと答えた人

(2) 考察

YESと答えた結果を見ると、自分たちが思っている以上に高校生が方言を使っていた。また、高校生が使わないと推察していた「犬がもう死ぬる」「学校から往ぬる」の項目にNOと答える人が多かったことから、「死ぬる」「往ぬる」という動詞は使われなくなっているということが考えられる。しかし、調べてみると「がいな」「がいや」の2つの形容詞は室町時代の抄物等に、仮名書きの例が表れ始めたと書かれていた。これは、程度の甚だしいさまを表す、という意味がある。私たちは、この「がいな」「がいや」は宇和島特有の方言だと思っていたが、参考文献によると各地で方言として伝わっていることがわかった。NOと答えた結果を見ると、NOと答えた項目の結果が平均的だった。このことから、宇和島の方言が次第に使われなくなっていると考えられる。

5 今後の課題

今回の調査は、調査対象が本校1年生を中心としていたため、データとして十分なものではなかった。また、アンケートの分析についても、先行する文献をきちんと調べる時間がなかったため、客観的な分析ができなかった。今後の課題として、「がいな」「がいや」の使用状況を年代別に調査する必要があると考える。小学校就学前の子ども、小学低学年、小学高学年、中学生、高校生、さらには20代～30代、30代～40代、・・・といった区分で調査していくことが必要になると思う。そうすることで、現在の使用状況がある程度把握できるのではないかな。

また、今回の調査をしてみて、改めて「宇和島のことば」に愛着を持つことができた。一人一人が何気なく使っている地域の方言を見つめなおすべきであると思った。たとえ知らない人でも、方言によっておおよそその人がどこの出身なのか分かるように、方言はいわば、その地域の合言葉である。その合言葉を大事にすることが、自分たちの地域を愛することになり言葉の歴史を紡いでいくことになるだろう。

参考文献

- ・新不明解・宇和島語辞典 宇和島方言集 <http://tack7.fc2web.com/kotoba/gaina.html>
- ・『精選版 日本国語大辞典』小学館